

「ひとつ、よい仕組みを」 バイオ炭素循環 LAB通信

バイオ炭で ひとつ、よい仕組みを

脱炭素時代へ世の中が進む中で、
バイオ炭・バイオコークスに対する
関心・可能性への期待が広がっています。

「炭」という昔からある技術ですが、
炭素貯蔵・燃料代替物・サーキュラー
エコノミーといった文脈で急に注目される
ようになってきています。

私たちは「ひとつ、よい仕組みを」という
キーワードに合わせて皆様におけるバイオ炭活用の
可能性をご提案させていただいています。

バイオ炭LAB通信 お届けします！

みなさま、初めまして。

私達は株式会社三石ハイセラムと申します。
元々は耐火物製造をしていた会社ですが、
現在では、過熱水蒸気式のバイオ炭製造
装置の製造・販売を行っており、同時に、
バイオ炭の可能性を世の中にお伝えする
事に取り組んでいます。



脱炭素時代におけるバイオ炭の可能性

「炭」は決して新しい概念ではありません。昔から炭焼き小屋で
燃料として製造され、利用されてきました。

その炭が、脱炭素時代において改めて注目を集めています。IPCC
報告書や、先日閣議決定された地球温暖化対策計画でもバイオ炭に
ついて言及されています。

バイオ炭は炭素の貯蔵技術として期待される一方、その機能性の
高さから、多くの事業者がさまざまな活用方法を模索しているのが
現状です。最新動向を、この通信を通してお伝えしてまいります。



第二号となるバイオ炭市場レポートを作成しました。 「見えてきたバイオ炭活用の方向性」 弊社ホームページよりお問い合わせください。

バイオ炭の活用方法については、日頃よりさまざまなご相談をいただいております。このたび、当社発行のバイオ炭市場レポート第2弾として、「バイオ炭活用の方向性」をまとめましたのでご紹介いたします。お客様との商談を通じてご相談いただいた内容の中から、特に注目すべき活用の可能性をピックアップいたしました。

- ① バイオコークス
- ② 新製品の原料（バイオ炭含有製品）
- ③ 廃棄物の削減・減容
- ④ 建設資材（コンクリート・アスコン）

各項目について、お客様から寄せられた具体的な声をまとめておりますので、ぜひご参考になさってください。



バイオ炭製造事例のご紹介

当社におけるバイオ炭製造の実績をご紹介します。



木質ペレットの炭化

炭素含有量	： 約40%向上
炭化時間	： 40分以上
効果	： カロリーアップ 取扱い・保管が容易
用途	： 燃料代替



有機汚泥の炭化

減容率	： 80～90%
炭素含有量	： 約20%
炭化時間	： 約1時間
効果	： 減容、臭気対策、 処理費用削減
用途	： 肥料、土壌改良材

当社ではバイオ炭の製造テストも可能です。
当社テストプラントを活用して、炭化テストを実施
できます。お気軽にご相談ください。

バイオ炭LAB Memberより



できること・
できないこと、
一緒に可能性を
探していきましょう。

営業部
部長代理 山下

バイオ炭・バイオコークスへの注目度が日々高まっていることを実感しています。
まだ世間的に情報が出回っていないため、「このようなことに対応できるのか?」「事業として魅力的なのか?」といったご相談から始まるケースが大半です。
バイオ炭は技術力の結晶であり、炭化時間や温度調整など、炭素濃度をどの程度まで高めるかを決定する多くの変数があります。まずはオンラインでお気軽にご要望をお聞かせください。



株式会社三石ハイセラム

0869-62-0354

岡山県備前市三石2577（営業部） <https://mitsuishi-hc.jp/>

バイオ炭に関するご相談（作りたい・使いたい）はお気軽にご相談ください

お問合せ
こちらのQRより

